

日本の学力はどこに向かうか

—ゆとり教育と学力低下論争の先にあるもの—

市川伸一（東京大学教育学研究科）

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/lab/ichikawa/>

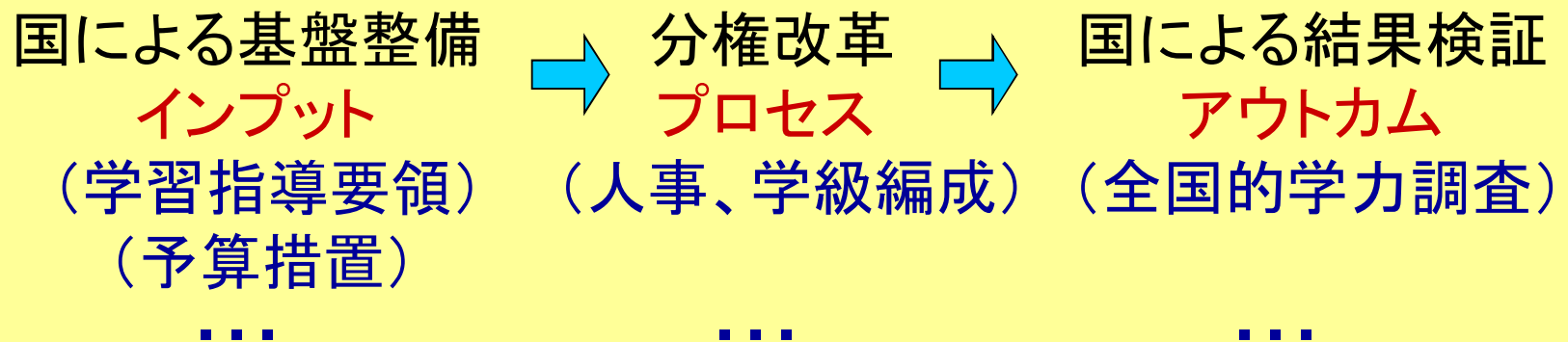
Stream of Japanese Education

- Till 1970's : Age of knowledge cramming
- 1980's ~ 1990's : Age of pressure-free education
- 1999 ~ 2002 : Debate on decline in
academic performance
- 2008 ~ : Age of balance and integration
acquisition vs inquiry
teacher-led vs learner-centered
receptive learning vs problem solving
instruction vs construction
academic basics vs social competence

『新しい時代の義務教育を創造する』

(2005年10月26日 中教審答申)

学校力、教師力の強化により、人間力を育成



指導要領改訂にあたって継続された方針

- 基本的な学力観・教育観
基礎基本の徹底とともに、「自ら学び自ら考える力」
などの「生きる力」を育てる
- 「総合的な学習の時間」の存続
- 完全週五日制を前提

新たに重視された点

- 言葉と体験

教科横断的な言語力の育成

- 理数能力

- 外国語

- 基礎体力

全体的な時間数の増加

習得・活用・探究のバランス

中教審答申（2005年10月26日 p. 14）

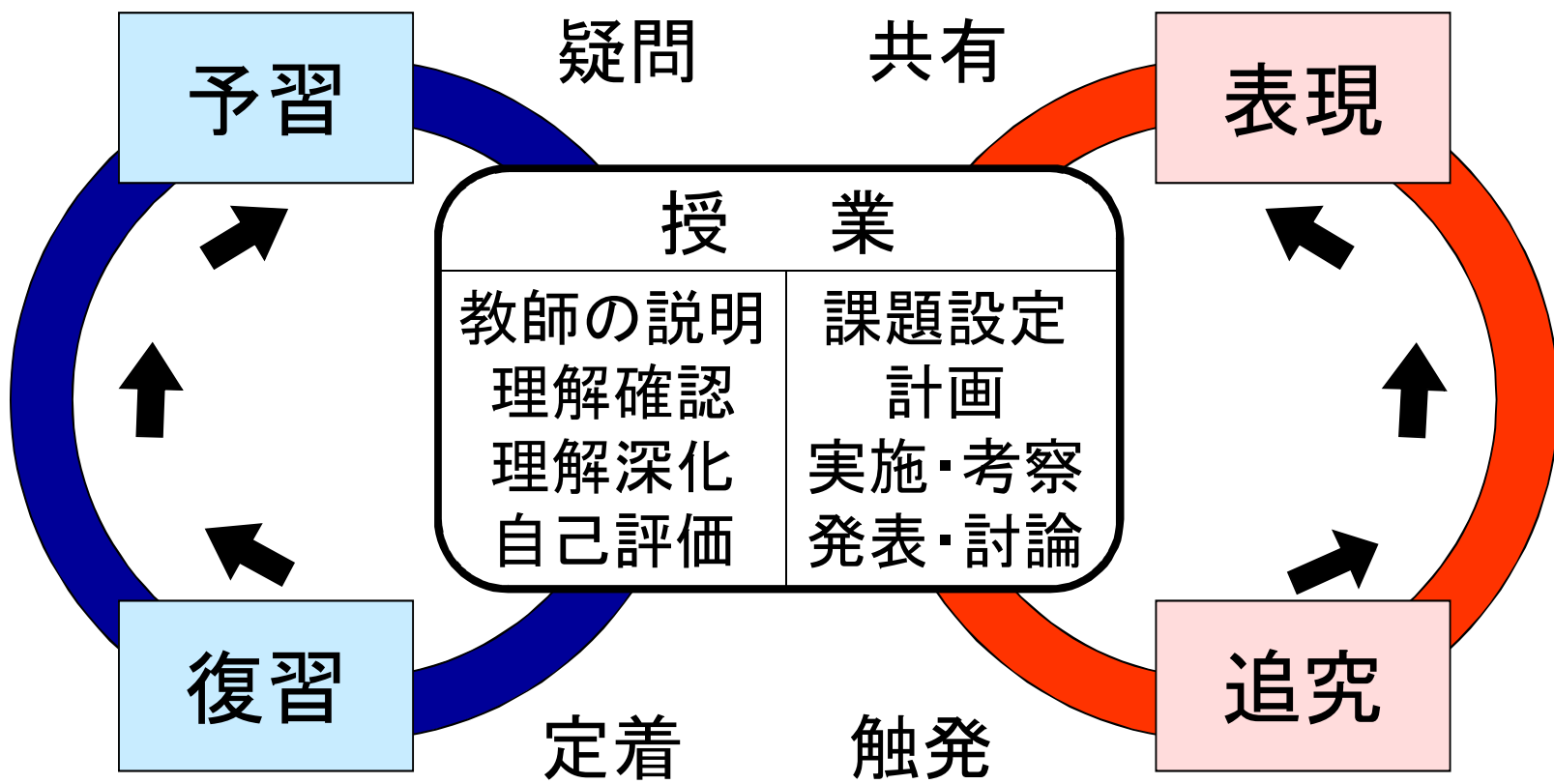
習得型の教育：基礎的な知識・技能の育成

探究型の教育：自ら学び自ら考える力の育成

中教審答申（2008年1月17日 p. 18）

「……**教えて考えさせる指導**を徹底し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることが重要なことは言うまでもない。」

教材・教具の工夫／理解度の把握



習得サイクル

探究サイクル

新学習指導要領の告示 (2008年3月28日)

小学校での変化

国語・算数・理科の時間増
高学年での外国語活動の導入

中学校での変化

選択教科の実質的廃止
英語、数学、理科の大きな時間増
部活動の位置づけ

内容面での変化

- 全体的に学習内容の復活
- 教科の中での体験、活用の充実
各教科で言語活動の重視
- 道徳教育のあり方
- 家庭や地域との連携
生活習慣、学習習慣
キャリア教育、ボランティア活動

基礎基本の習得 : 現状と課題

- **全国学力調査の影響**

学力の実態に対する当事者意識の高まり
改革の方向はまちまち

- **授業改善**

習得の授業の本質は : 授業の設計方針
事後検討会の充実 : 全員参加型の研修

- **家庭学習の充実**

学習の手引き : 生活規律、学習習慣が中心
学習方法 : 理解を促す学習方略の体験的指導

学力・人間力育成推進会議：IFプラン

学習環境づくりに向けての6つのプランの実現

1. 教えて考えさせる授業 → 基礎基本の確実な習得
2. アセスメントテストの活用 → 学習改善・授業改善
3. 学習法指導 → 家庭学習の習慣・スキル
4. 授業外の学習支援機能 → 個に応じた補充・発展

5. 学校と地域の連携したプログラム → 夢や目標
6. 授業外学習ポイント制度 → 地域教育への参加

新たなねらいの達成 : 現状と課題

- **教科横断的な言語力の育成**

教科学習における説明、発表、討論、まとめ、レポート
国語科以外で、どう指導を入れていくか

- **思考力、判断力、表現力**

習得の授業でも、探究の授業でも育成の機会を
探究学習への志向 : 目的、イメージは定着

- **英語力は伸びているのか**

小学校 : 楽しい活動の中にも習得目標を

中学・高校 : 堅実な習得とコミュニケーション活動の両立

- **未解決の課題: 理数教科への意欲、社会問題への関心**